

# 令和5年度 ひばり認定こども園自己評価結果

## 1. 教育・保育の目標

園児一人一人に応じた教育・保育を一体的に行い、心身ともに健康で明るく、たくましい子を育てる。

### ■ 目指す子どもの姿

- げんきにあそぶ子
- あいさつのできる子
- おもいやりのある子
- じぶんのことはじぶんでできる子

## 2. 重点的に取り組む目標・計画

- 【子育ての支援】園児の健やかな育ちには、園と家庭と地域の連携が必要不可欠である。園から家庭や地域へ積極的に働きかけていくことで連携の強化を図り、共に育てていくための子育ての支援に努める。
- 【学びを保障する環境】園の教育及び保育は、義務教育の基礎を培うことはもとより、義務教育以降の教育の基礎、つまり生涯にわたる教育の基礎を培う重要なものである（幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説より）。園の教育及び保育は環境を通して行うものであることを基本としていることから、園児一人一人の発達に応じた学びを保障する環境の設定に努める。
- 【保育の質の向上】教育・保育目標を共通理解し、園児理解に基づく評価や園児の実際の姿と教育課程との照らし合わせを行いながら教育及び保育を進める。また、園内外の研修の充実や園児・保護者・職員の Well-being の向上を図り、保育の質を高めていけるように努める。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
教育・保育目標の共通理解と周知	C	園内研修や周知に向けた取り組みを通して、職員の共通理解を図り、一定の成果はあったが、保護者・地域への共通理解ができたかどうかは把握しづらい。
発達や教育課程に応じた環境構成	B	発達や教育課程に応じた環境構成に努めた。
保護者や地域と共に進める保育	C	ひばりコミュニティデー（地域との交流事業）を開催した。保護者と共に進める保育の一端となった。
関係機関との情報共有	C	必要な情報は共有できた。多様な保護者に支援する上で、情報が足りないこともあった。（園からは随時発信した。）
自己の心の充実	B	業務改善を行い、保育の質の向上に向けての取り組みへの時間を取ることができた。

※評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

4. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
保護者と共に進める保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひばりコミュニティー（地域との交流事業）を進めていき、保護者への教育課程の周知や家庭教育の促進を図る。</li> <li>・ 保護者の得意な分野で、園の活動に協力をしてもらえるような関係づくりを図る。</li> </ul>
地域と共に進める保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園から地域へのアプローチをしていき、園児が多様な体験のできるよう、計画していく。（野菜作り、陶芸体験、自然体験、料理教室、伝承遊び…等）</li> </ul>
関係機関との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者支援に必要な情報について、関係機関との連絡を密にし、共有していく。</li> </ul>
自己の心の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登降園時の対応や、保護者アンケート等の様々な情報から園児や保護者の心身の健康を把握するよう努める。</li> <li>・ 職員の well-being を高める取り組み。（風通しのよい職場の雰囲気づくり、業務改善、健康増進への取り組み、親睦会…等）</li> </ul>

令和5年12月28日

評価者

那珂川町立ひばり認定こども園

園長 高橋 和子